

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470800846	事業の開始年月日	平成16年6月1日	
		指定年月日	平成16年6月1日	
法人名	特定非営利活動法人 加齢ライス			
事業所名	ほのぼのほーむ			
所在地	( 〒236-0042 ) 横浜市金沢区釜利谷東7-14-29			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成26年2月1日	評価結果 市町村受理日	平成26年4月25日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物内はすべてバリアフリー造りになっている。</li> <li>・掃除が行き届いていて、常に清潔な環境である。</li> <li>・リビングの天井が高く、窓も広いので、座っていても外の様子がわかる。</li> <li>・ホームの前は、車が通らない小川の流れる散歩のコースがあり、安心してのんびり歩くことができる。又、四季の花が咲き、心が癒され、利用者が職員もリフレッシュできる場所となっている。利用者が最も楽しみとしている場所でもある。</li> <li>・午前中の健康体操や午後のレクレーションに力を入れているため、活気がある。</li> </ul>
--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成26年2月20日	評価機関 評価決定日	平成26年4月14日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><b>【事業所の優れている点】</b>                  ◇主治医（内科）の月1回の往診があり、管理者、ケアマネージャ、（可能な場合は）家族が同席して医師の指示やアドバイスを、健診結果を「定期健診記録」に記録を残している。緊急対応が必要な場合は主治医に連絡し指示を仰ぐ体制にしている。                  ◇事業所の理念である「介護十訓」は、尊厳、笑顔と思いやり、ていねいな言葉づかいなどをキーワードとし、職員のみならず利用者も一緒に毎朝唱和して、日常生活の中に生かしている。                  ◇玄関を日中は開錠、居室は常時開錠とし、リビングは大きな窓と高い天井構造であり、十分な採光と空間があって開放的雰囲気である。</p> <p><b>【事業所が工夫している点】</b>                  ◇職員の工夫が各所に見られる。例1：居室のドア上部に発泡スチロール製のマットを取り付け、指挟まれ防止、閉め音発生防止に役立っている。例2：トイレにポットの湯を常備し、排泄後の清拭用に温かい布を使っている。                  ◇近くの小川に沿った遊歩道があり、天気の良い日は職員が付き添って散歩に出かけて自然を楽しみ、また、午前中は全員リビングに集まり歌を合唱したり、体操、歩行、塗り絵などをして気分転換と良好な体調維持に努めている。                  ◇食事の準備、配膳、下膳に利用者が積極的に参加して生活を実感するように職員が支援している。</p>
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ほのぼのほーむ
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・独自の「介護十訓」をリビングに掲げ、毎朝利用者とともに唱和し、理念の実践に取り組んでいる。	・事業所理念「介護十訓」を事務所、リビングに掲示し、毎朝、利用者と職員が唱和している。 ・「尊厳、笑顔と思いやり、ていねいな言葉づかい」などを十訓のキーワードとし、毎日のサービスに反映している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・町内会に入会し、ごみ収集日には掃除に参加している。 ・散歩コースになっているところでは近隣の方々と挨拶を交わしている。	・町内会の回覧板などで行事を把握し、利用者は地域のお祭り、地区センターの催しものなどに参加して楽しんでいる。 ・歌・演奏・踊りなどの地域ボランティアを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・徘徊高齢者SOSネットワークに登録し、協力態勢をとっている。 ・相談事にはその都度対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・近隣在住の職員が多く、常に情報は持ち寄っているが、今後の課題としたいところがある。	・運営推進会議は開催していない。	運営推進会議を開催して、事業所の取組みを地域に理解してもらい、意見交換をしてサービス向上に反映することを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・ホームでの判断が難しいことは、横浜市、金沢区の窓口相談している。他区とも協力できている。	・金沢区役所の担当者や、諸手続き、現況報告、相談を通じて密に連携している。 ・地域包括支援センター職員が訪問して情報交換をし、また、区主催の研修会（虐待防止、身体拘束禁止等）に職員が参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当然のことなので、職員全員で話し合い、安全を優先している。</li> <li>・玄関は夜間以外は施錠しないで、自由に出入りしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関は日中は開錠、居室は常時開錠にしている。</li> <li>・身体拘束禁止マニュアルがある。</li> <li>・職員は外部研修で身体拘束禁止について学んでいる。</li> </ul>	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当然のことなので、「虐待の事例」の学習を行っている。</li> <li>・どんなことでも記載できるノートを作ったり、入浴時に身体の変化の観察をしている。</li> </ul>		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要時、ご家族にも具体的に支援ができるように研修も受講している。</li> </ul>		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分に理解し、納得されるまで丁寧に説明している。</li> </ul>		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不満・希望については、個別にお話を伺い、ご家族の協力を得ながら解決している。</li> <li>・「ご意見箱」を設置している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者との日常会話、家族来訪時の情報、来訪が少ない場合は電話などを通じて本人や家族の意見・要望を把握している。</li> <li>・ご意見箱を常設しているが今まで利用例はない。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎日のスタッフ会議で報告や相談を受けながら、働きやすい環境とともに作り上げていくことを、常に話し合っている。	・引き継ぎ時やスタッフ会議で職員の意見を把握している。 ・利用者への対応の仕方、改善（ドア挟まれ防止など）に関する意見があり、サービスに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・一人ひとりの個性を尊重し、努力している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修を受けることはなかなかシフト上難しいが、毎日のケアの積み重ねの中から得るものや、意見交換しながら学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・県、市、の認知症高齢者会議などに、情報交換の場として出席している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・とても大切なことなので、ご家族の協力を得ながら、不安にならないよう要望等に耳を傾け、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・安心していただくために、どんな些細なことでも話せる雰囲気づくりを心掛けている。又、電話相談、来訪時も気軽に話せる体制を取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・個別性を大切にし、優先順位を見極めながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・残存機能を活かし、できたことは共感し合える気持ちを表現しながら、安心できるように家庭的な場所づくりをしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族の現状を理解しながら情報を交換し、不安な状況を解決している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの方には、いつでも訪問してもらえるように対応や環境づくりを行っている。	・知人が訪問する場合はリビングや居室でくつろいもらう体制をとっている、最近では知人の訪問はあまりない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者一人ひとりの性格・個性を理解し、良い関係づくりができるように、スタッフが把握しながら居心地の良い場所づくりをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・いつでも気軽に相談・支援できる関係にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・一人ひとりの希望や思いを伺っている。	・利用者との日常会話や家族来訪時の情報により、思いや意向を把握している。 ・表出困難な利用者については表情、しぐさ、声の調子などで本人の思いを汲んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時に生活履歴をお聞きして、アセスメントの情報を記載している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々のケアの中で、スタッフは良く観察し、気付いたこと、変化などを毎日のミーティング時に情報を交換して、日々の記録を残している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人・家族・主治医・スタッフ・関係者の意見を取り入れながら、計画を作成している。	・本人、家族、主治医の意見を事前に把握し、モニタリング結果を参考にして、全職員が参加してケアカンファレンスを毎月行っている。 ・介護計画の実施結果を吟味し、項目により3か月、6か月ごとに見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子は介護記録に記入し、共有すべきことは連絡ノートに記載している。 ・カンファレンス時に意見交換し、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・事業所でできないことは家族やボランティアなどへ依頼している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地区センター・近くのスーパー等を利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・毎月、主治医の往診があり、ご家族の付き添いもあるので、情報の共有ができています。症状によっては専門医・病院の紹介もあります。	・主治医（内科）の月1回の往診があり、管理者、ケアマネージャ、（可能な場合は）家族が同席して医師の指示を受けている。 ・健診結果を「定期健診記録」に記録を残している。 +E74	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・利用者に変化があった時は、いつでも主治医に連絡できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・病院側と情報交換しながら、早期退院に向け連絡を図ってきた経験が何度もあるので、今後も十分対応できる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居時の説明と状態の変化を早目に医師に相談し、家族と方向性を話し合っている。	・11月に職員2名がターミナル研修に参加した。過去2回、見取りを行っている。 ・重度化した場合は、家族、医師と連携を密に行い適切に対応する体制にしている。	重度化した場合やターミナルに向けた事業所の対応指針を明確にし、家族の事前了解を得ることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・状況を想定し、いつでも対応できるようにしている。 ・急変時のマニュアルで、常日頃確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・消防署の協力を得て、避難訓練に利用者も参加し、年2回実施している。	・年2回利用者が参加して避難訓練を行っている（12月、次回3月）。 ・消防署員によるアドバイス、消火器具の取扱い指導を受けた。 ・備蓄（水、食料）が2日分ある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・親しみやすさや馴れ合いになる対応が傷つける言動になりやすいことを常時注意喚起している。	・管理者は、理念の一つである「言葉は言霊」を大切に、丁寧な言葉使いをするように、職員を指導している。入浴や排泄の支援時は、カーテンやドアを閉め後ろを向くなど、利用者の羞恥心に配慮している。	・職員の入職時に、個人情報の守秘義務についての誓約書の提出義務付けを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日々の会話でも、最後まで話ができるよう待つ姿勢を大事にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ご本人のペースを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・「介護十訓」にもうたっている。 ・希望により訪問美容師にも来てもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食材は季節感のあるものが多く、好き嫌いなく、完食されている。 ・食事の準備・配膳・片付け・食器拭きなどもお願いしている。	・利用者の消化能力に合わせて、とろみ、ミキサー食、きざみ等の工夫をしている。 ・利用者が食材チェックを行い食事への関心を持つように努めている。 ・行事食を何にするかは、利用者好み聞き決めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・栄養士の献立でバランスが取れている。個人の状態に合わせて、量を調整したり、きざみ食にしたりしながら、水分量もチェック表で確認することができる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後の口腔ケアを実施している。 ・就寝時は義歯洗浄剤を使用している。 ・定期的に訪問歯科医の検査を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・個別ケアの支援を行っている。	・排泄チェック表を活用し、トイレやポータブルトイレでの排泄を支援している。利用者の無言のサインから誘導することもある。 ・脚力維持のため立位でリハビリパンツを交換し、トイレで排泄するように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・繊維質の多い食材のほか、水分量、毎朝の体操、散歩を日課にしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・日中の明るい時間帯での入浴は好評である。	・日中の明るく温かい時間帯に、週2回の入浴を支援している。 ・入浴剤を使用し、職員が「気持ちいい？」など声をかけ、利用者がくつろげるよう努めている。利用者から「お風呂の日が楽しみ」など満足している様子うかがえる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・その日の体調や状況に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬の目的は主治医の往診で理解できる。薬剤師に服薬の効能変化についての相談もできる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・生活歴を考慮しながら、個々の役割を持っていただき、達成感につなげるように支援している。 ・毎日のレクリエーションに力を入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・入浴日以外は近隣の散歩コースに出かけ、季節感を感じたり、ふだん行けない場所は行事として計画したり、家族にお願いしたりしている。	・入浴日以外は、日常的に近隣のせせらぎのある遊歩道を散歩し、四季の花、鯉のえさやり、近所の顔なじみとの会話などを楽しんでいる。 ・普段行けない場所への個人的な外出は家族にお願いしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・個人の希望、能力に応じ、支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・家族の声を聞きたいときは、いつでも電話を使えるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・行事の写真を皆さんと貼ったり、一人ひとりの作品を飾ったりしながら、季節感、生活感を出している。	・リビングは大きな窓や天窓を設置し明るく、温湿度計で調節し、快適な空間になっている。 ・生花、利用者の作品、行事の写真、雛飾りなどが飾られ、季節感のある親しみやすい空間を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共有できるものを置いたり、毎月の作品を掲示したりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自分の使い慣れたもの、大切にしていたもの、家族の写真等を居室に置くことによって、安心して過ごしていただいている。	・落ち着いて過ごせるよう、居室にテレビ・タンス・机などなじみの調度品や、仏壇・家族の写真などを持ち込んでもらっている。また、居室内のボードに、利用者の作品のぬり絵や貼り絵などを掲げ、お気に入りのコーナーになるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・建物内は全てバリアフリーにし、手すりの設置で安全を優先している。表札表示によって混乱しないような環境にしている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名

ほのぼのはおーむ

作成日

平成26年4月12日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議の開催	平成25年度は実施	参加者がいなくとも事業所で開催する。	6月を予定
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。